

## 22. 卒業生・修了生への支援活動

### 1) 再就職や進学・就職・国家試験への支援

看護学部では、在学生に対して、就職・進学・国家試験への支援を3回生から重点目標を設定して取り組んでいる。卒業生に対しても、在学中の学年担当教員と看護研究指導教員を中心に、キャリアアップ支援を継続している。

令和元年度は、第45回高知女子大学看護学会（新人看護者を対象にしたワークショップ「看護の実践を語ることで気づく自己の成長」を企画）や高知県立大学看護学部同窓会への参加を呼びかけた。また、看護研究の成果を学会発表や誌上発表できるように卒業前から支援を行った。さらに、キャリアアップのための新たな就職や進学の相談に対しても、メールだけでなく直接面談して相談を受けて支援した。日常的には、就職した施設において、在学生が実習する機会を捉えて卒業生の相談に応じた。国家試験についても、卒業生が受験する場合は、各種受験手続きの支援、模擬試験受験の支援、学習意欲継続への支援を行った。さらにそれぞれの専門領域の教員が、卒業後5年前後の人を対象にして、大学院進学への相談を実施したり、大学で実施している教育研究活動・地域貢献活動・ケア検討会への参加を促進して、卒業生のキャリアアップ支援を行った。

### 2) 高知県内の卒業生に対するキャリア支援

高知県内の卒業生に対するキャリア支援に関しては、年間目標に基づき、①文献の配布、②図書紹介、③技術練習、④キャリア・進学相談の活動を行った。今年度は、県外就職の卒業生からの参加もあり、74名が登録した。

今年度は、④キャリア・進学相談を9月半ばから月末の夕方に行い、参加しやすいように工夫した。特に大学院等キャリア支援相談に関しては、延べ22件の相談があった。その中で3名は本学大学院を受験した。

#### ①資料、文献の配布：38件

疾病、病態の理解、レポートの作成に必要な資料の配布を行った。

#### ②図書紹介：5件

疾病、病態の理解、看護実践の参考になる図書の紹介を行った。

#### ③技術練習（個人）：7件

点滴交換、固定などの技術練習のために演習室と教材を提供した。

#### ④技術練習（集合）：2回、延べ4人

5月と6月に助産領域で分娩介助を中心に集合研修を行った。

#### ⑤大学院等のキャリアに関するコンサルテーション：7件

大学院、認定看護師への進学に関するコンサルテーションを行った。

上記には含まれないが、県外在住の卒業生2名が同コンサルテーションにより進学した。

本年度の特徴としては、所属病棟単位での技術教育が充実したようで、技術練習に関するニーズは相対的に低くなった。一方、大学院進学等の将来のキャリア支援に関するニーズが高まる状況にあり、来年度以降の計画をこれに沿ったものとして企画する必要があると考えている。

### 3) CNS 認定等の支援

看護学研究科博士前期課程では、平成12年3月に1期生が修了して以来、専門看護師の認定試験に向けて支援を行っている。大学院修了前に主指導教員は、院生の背景や個別性を尊重し、

修了後の資格認定までの計画を院生とともに立案している。修了後は、その計画に沿って定期的に事例検討会や勉強会の開催、コンサルテーション、大学院の特別講義の連絡や講師依頼、共同研究、先輩 CNS の紹介などを行い、CNS 認定及び認定更新への支援をしている。

平成 31 年までに専門看護師コースを修了し、認定試験に合格した専門看護師は、9 領域 115 名であり、研究コースにおいては、看護管理学領域修了後、23 名が認定看護管理者の資格を得て、活躍している。令和元年度は、がん看護 CNS2 名、小児看護 CNS2 名、精神看護 CNS1 名、家族支援 CNS4 名、計 9 名の修了生が CNS 認定試験に合格し高度実践看護師として活動している(表 1)。また、認定看護管理者の認定試験には 2 名が合格した。

表 1 修了生の専門看護師・認定看護管理者認定数

領域	がん看護	慢性疾患看護	急性・重症患者看護	小児看護	精神看護	家族看護	地域看護	在宅看護	老人看護	看護管理	合計
令和元年度	2			2	1	4				2	11
総計	39	3	2	21	20	15	2	10	3	23	CNS:115 名 認定看護管理者:23 名

#### 4) 看護学部同窓会活動

2019 年度、看護学部同窓会は創設 10 周年を迎えた。役員一覧は、表 2 の通りである。

表 2 2019 年度同窓会役員

役員名	氏名	卒業・修了期	所属
会長	梶原和歌	10 期生	近森病院 顧問
副会長	藤田佐和※1	28 期生	高知県立大学看護学部長
	中野綾美	27 期生	高知県立大学看護学部
書記	田鍋雅子	38 期生・修士 13 期生・博士 18 期生	高知医療センター看護局
	山中福子	修士 7 期生	高知県立大学看護学部
会計	川上理子	35 期生・博士 9 期生	高知県立大学看護学部
	西内舞里	46 期生・修士 12 期	高知県立大学看護学部
会計監査	野田真由美	34 期生	高知市保健所
	矢野智恵	38 期生・修士 1 期生 博士 17 期生	高知学園短期大学
庶務	角谷広子	25 期生, 修士 5 期生	芸西病院看護部
	池添志乃	34 期生, 修士 2 期生, 博士 1 期生	高知県立大学看護学部
	川本美香※2	修士 13 期生 博士 18 期生	高知県立大学看護学部

但し、※1：看護学部長、※2：看護学会役員は当て職である、

(1) 2019年度の活動

- ①第9回同窓会総会の開催
- ②役員会の開催
- ③講演会（高知女子大学看護学会との共催）
- ④会報（第19・第20号）の発行
- ⑤高知女子大学看護学会への支援
- ⑥学生及び同窓生生活動への支援
- ⑦緊急奨学金貸与

(2) 活動の実際

① 第9回同窓会総会の開催

2019年7月20日（土）、高知県立大学永国寺キャンパスにて、県内外から同窓生70名の参加のもとに開催された。議事では、最初に報告事項として、(1)平成30年度活動報告、(2)平成30年度決算報告、(3)平成30年度会計監査報告があった。また、審議事項として、(1)令和元年度活動計画案、(2)令和元年度予算案、(3)第3期同窓会役員について審議し、承認された。

②役員会の開催

役員会は、3回開催した。第1回役員会は5月13日に開催し、本年度の活動、会報、総会および懇親会の企画、学部生の緊急奨学金貸与等について審議し、役割別年間スケジュールが確認された。第2回役員会は7月1日に開催し、同窓会総会、懇親会、同窓会報第19号について審議された。第3回役員会は2020年1月6日に開催し、同窓会報第20号、2020年度活動案等について審議された。

③講演会の開催（高知女子大学看護学会との共催）

講演会は、7月20日に高知女子大学看護学会との共催で開催された。今回のメインテーマは「人生百年時代の看護のSHIFT（シフト）」であり、学会員と一般参加者あわせて153名の参加があった。詳細は「21.高知女子大学看護学会 1) 第45回高知女子大学看護学会の開催」にて報告している。

④会報の発行

2019年度は、第19号と第20号の2回の会報を発刊した。



i. 第 19 号の発行

第 19 号は、第 9 回総会の報告に合わせて令和元年 11 月 3 日に発行した。本号では、令和元年度同窓会総会報告、同窓会役員紹介、平成 30 年度活動・会計報告・令和元年度予算案、第 45 回高知女子大学看護学会報告、7 月 21 日に開催された、高知県立大学看護学部同窓会の大学院部会により運営されている会である看護開発研究会報告、同窓会懇親会の様子等を掲載した。

ii. 第 20 号の発行

会報第 20 号は 2020 年 3 月に発行した。本号では、同窓会発足 10 年にあたり、「同窓会のこれから」をテーマに同窓会会長梶原和歌氏、本学卒業生、同窓会役員による座談会の様子を掲載した。

さらに、卒業生が活躍している所属機関を紹介する記事では、駒木野病院、土佐市で活躍している卒業生から、さらに幅広い領域で活躍する修了生では、島田美鈴氏（博士 8 期生）、並川智哉子氏（修士 3 期生）、岩崎美幸氏（修士 18 期生）、さらに、全国で活躍する卒業生・修了生では、65 期生の田岡南冬氏、伊藤万由美氏、梶間理奈氏、矢野愛弓氏の卒後 1 年目の若い同窓会員からもメッセージをいただいた。

また、学生卒業生の活動支援として、国際交流支援、第 5 回、第 6 回日本 CNS 看護学会支援などについて報告した。「看護学部は今」では、「いけいけサロン活動」を行っている看護学部生の活動が紹介された。

⑤高知女子大学看護学会との共催

平成 25 年度より、高知女子大学看護学会へ毎年資金支援を行っており、令和元年度は、30 万円の支援であった。同窓会発足当時より、高知女子大学看護学会との共催で講演会を開催しており、今後も、両者の連携を図りながら、学術の進化、ネットワークの拡大に努めていく方針である。

⑥学生及び同窓生活動への支援

卒業生、修了生が学会長となり開催された日本 CNS 看護学会、高知県立大学看護学部における国際交流などへの支援を行った。

⑦緊急奨学金貸与

2019 年度は、1 名の看護学部学生を対象に緊急奨学金支援を行った。